



大きな耳・小さな口・優しい目



昨日の全校集会でコミュニケーションについてお話をしました。

最近**コミュニケーション能力**が重視される傾向にあります。

コミュニケーション能力とは、「対人的なやりとりにおいて、意思疎通、協調性、自己表現能力」のことで、「人との関係性を築く能力」ともいえるものです。そしてコミュニケーションには、大きくわけて「言語」「非言語」の2つがあります。

「言語」は、意見、意思、考え、価値観、知識、感情などを言葉で伝えるコミュニケーションです。また「伝える」だけでなく、内容を理解する「聴く」スキルも必要となります。

「非言語」は、身振り、手振り、表情、視線、声のトーンなど、言葉以外の部分で情報を発するコミュニケーションです。「目は口ほどに物を言う」ということわざもありますが、非言語コミュニケーションは言葉以上に大きな役割を果たすといわれています。

相手に対して「あなたの考えは間違っている・嫌いだ・嫌だ」とはっきりと言葉で伝えることが言語的コミュニケーションです。相手をにらみつける、相手を見ながらこそこそ話すという様に言葉で伝えているわけではないけれど、怒っているのかな、嫌われているのかなと感情が伝わるのが非言語コミュニケーションです。良い非言語の伝わり方は、例えば「おはよう」と声をかけたとき、会釈をしてくれたり、笑顔を返してくれるとこちらの気持ちが伝わっているんだと安心できます。

「大きな耳、小さな口、優しい目」、これが、人とコミュニケーションをとるときに必要な姿勢です。どういうことか、それは人の意見や悩みを聞くための**「大きな耳」**を持つこと。

そして、上から目線で偉そうにしたり、余計な口出しをしない、自分の意見を押しつけないなど**「小さな口」**でいることが大切です。なぜ、私たちには耳が二つで口は一つなのでしょう。

それは、聞くことが話すことの2倍必要であり、大切だからです。つい、自分の思いを知って、分かってもらいたくなるものですが、人の話をろくに聞きもしないで、自分の意見ばかりを主張する人の話を誰も聞いてはくれません。一つ話をしたら二つ相手の話を聞きましょう。

そして目配り、気配りをし、温かく見守る**「優しい目」**を持つことが大切であると校長先生は思います。今、話している人がどんな気持ちなのか。周りの人はどんな気持ちでいるのか。

きちんと周りに目を配り、気づける人になって欲しいと願っています。